

ねん がつ にち
2020年4月12日

ふっかつ しゅじつ
復活の主日

きくち いさおだいしきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

みなさま しゅ ごふっかつ
皆様、主イエスの御復活おめでとうございます。

いま しゅんかん せかいじゅう にほん おお ひと まも
今この瞬間にも、世界中で、そして日本でも、多くの人がいちのちを守
ろうとして、いのちを救おうとして、力を尽くしておられます。感染が拡大
し続け、いったいいつまでこのような状態が続くのだろうか、先行き
を見通すことが難しい中で、なんとかいのちの危機を食い止めようと努
力する人たちの存在は、希望の光です。医療従事者に感謝し、
その健康のために祈ります。

まも たたか つづ ただなか あたら
いのちを守るための闘いが続いている直中で、わたしたちは、新しい
いのちへの復活という、わたしたちの信仰にとって、最も大切な出来事
を記念し、祝っております。いのちを守る行動が、これほどまでに注目
され、その価値が強調された四旬節と復活祭を、経験したことが
ありません。

おお ひと じしん ふく いがく しろうと ことし はじ ころ
多くの人、とりわけわたし自身を含めた医学の素人が、今年の初め頃
には、事態がこんなにも大事になるとは思っていませんでした。世界中で
段々と深刻さの度合いが増すに連れて、危機感を強めてこられた方も多
いと思います。わたし自身も、一月半ば頃から今に至る三ヶ月間、東
京教区をあずかる立場にあつてどういう判断をするべきなのか、悩み
ました。医療の専門家にも何度も相談をしました。的確で時宜を得た
アドバイスをいくつもいただきましたが、同時に専門家の間でも、事態
のとらえ方が異なり、様々な意見があり、難しい選択を迫られて困惑
することもたびたびありました。

しゅうそく いた げんじてん けつだん か ひ ほんだん ひょうか
まだ 終 息に至っていない現時点で、その決 断の可否を判断し 評 価す
きょうくぜんたい こうかい ちゅうし はん
ることはできませんが、教 区全体で公開のミサを 中 止にするという判
だん かんたん とうたつ けつろん ほんだん まん こ
断は、簡単に到達した結 論ではありません。その判断が、10万を超え
とうきょうきょうく しんと かた およ えいきょう かんが まも
る東 京 教 区の信徒の方に及ぼす影 響を 考 えたとき、いのちを守
さいぜん みち しゅんじゅん かさ
るためにとるべき最 善の道はどこにあるのか、 遼 巡を重ねてきました
いま まいにち こっこく へんか じょうきょう ま あ つぎ けつだん
し、今でも毎日、刻々と変化する 状 況を目の当たりにして、次の決 断
なや ひび つづ
へと悩む日々が続いています。

つね ねんとう お かみ たまもの
しかし常に念 頭に置いているのは、神からあたえられた賜 物であるいの
まも さいぜん みち さぐ どうじ しんこう かん
ちを守るために最 善の道を探ることであり、同時に、信仰のうちに神
しんらい うしな みち たんきゅう
への信 頼を 失 わない道を探 求 することあります。

じんるい いま きぎ ちよくめん い かがん
人類は今、いのちの危 機に 直 面していると言っても過 言ではありません。
じんるいぜんたい えいきょう およ きぎ すさ きょうりよく でんせん
人類全体に影 響を及ぼすいのちの危 機は、凄まじい強 力な伝 染
びょう ほし しょうとつ きょだいじしん かざん ふんか てんさい
病 や、星の衝 突や、巨 大地震や火山の噴 火といった天 災ではなく、
かぜ とうしょ い
たいしたことのない風 邪のようだと言 初は言われた、ウイルスによってもた
だいこんらん さいがい きぎ めいはく しょう
らされました。大混 乱をもたらす災 害によっていのちの危 機が明 白に 生
し かんせん し かくだい
じるのではなくて、知らないうちに感 染しそれが知らないうちに拡 大し、
ききてきじょうきょう なんと じぶん い き わす
いまは危 機的 状 況 なのだと何 度も自分 にかた せま
まいそな弱 々しい形 で、わたしたちに迫 ってきました。

れきし なか きず あ せかい おお い
これまでの歴 史の中でわたしたちが築 上げてきた世界が、大げさな言 い
かた し かんたん そんぼう きぎ ちよくめん
方 かも知れませんが、これほど簡 単にいわば存 亡の危 機に 直 面すると
おも
は、思 ってもみませんでした。

こんばん かんせんしょう かくだい りふじん できごと こんらん おそ かな
今 般の感 染 症 の拡 大という理 不尽な出来 事は、混 乱と恐 れと悲 し
どうじ すこ た ど いま
みをわたしたちにもたらしてありますが、同時に、少 し立ち止 まって、今 まで

せかい あゆ み なお あたら せかい か みち さぐ
の世界の歩みを見つめ直し、新しい世界へと変わっていく道を探るよ
うなが おも
う、わたしたちを促しているようにも思います。

きょうこう かいちよく
教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」にあるように、わたしたち
まも そうごうてき かんてん ちぎゅうかんきょう
はいのちを守るために、総合的なエコロジーの観点から、地球環境
もんだい にんげん と まさまざま かだい と く
問題をはじめとした人間のいのちを取り巻く様々な課題に取り組むこと
ひっす ぎろん つづ
が必須であると議論を続けていました。

きょうつう いえ しょうらい せだい かんきょう
わたしたちの共通の家をまもり、将来の世代によりふさわしい環境
のこ せきにん は せかい なん
を残していく責任を果たすためには、「この世界でわたしたちは何のため
い はたら
に生きるのか、わたしたちはなぜここにいるのか、わたしたちの働きとあ
と く もくひょう ちぎゅう なに のぞ
らゆる取り組みの目標はいかなるものか、わたしたちは地球から何を望
と ことた ぎょうこう
まれているのか」といった問いに答えていかなければならないと、教皇は
かいちよく よ
回勅で呼びかけます(160)。

げんじてん かんせんしょう まえ とほう
わたしたちは、現時点では、感染症の前にはまさしくなすすべもなく、途方
く きき ちよくめん くわ じたい じんるい
に暮れていのちの危機に直面しています。加えて、この事態が、人類の
れきし なか こんかい さいご だれ だんげん
歴史の中で、今回が最後であると、いったい誰が断言できるでしょうか。
みずか ぞんざい いみ と なお まね
わたしたちは、自らの存在の意味を、あらためて問い直すように、招か
れています。

きょうかい てがみ あたら ね こ
コリントの教会への手紙に、「いつも新しい練り粉のままでいられるよ
ふる だね と のぞ ことば する
うに、古いパン種をきれいに取り除きなさい」という言葉が記されていま
した。

ふっかつ しゅ あたら まね きょうかい つね あたら
復活された主の新しいいのちへと招かれている教会には、常に新
い た いち かこ こてい とど
しいのちを生きるために、その立ち位置を過去に固定させ留まることなく、
ぜんしん つづ もと
前進し続けることが求められています。

じっさい こんぱん できごと せいどう とも つど せいたいさいぎ
実際、今般の出来事によって、聖堂に共に集い、聖体祭儀にあずかっ
て、キリストの体における一致を体験することができなくなっている教
会かいは、半ば強制的に、そのあり方を変革するように求められています。

せいたいさいぎ ちゅうしん なに か
聖体祭儀がその中心であることには何も変わりがないものの、それがで
きなくなっている今、世界中の教会は、共同体のきずなを確認し深
めるために、様々な手段を講じています。このようにインターネットを通
じてミサを中継している教会も多くありますし、講座や祈りを、配信
し始めたところも少なくありません。日本だけではなく、世界中です。
司祭や信徒が個人で発信を始めている例も少なくありません。

こころ ひなんしょ きょうかい そんざい じだい じゅうよう いの
心の避難所である教会の存在は、どの時代にも重要です。祈りを
捧げる聖なる場所も信仰には必要です。共同体の皆と共に、一緒
に賛美を捧げる場所は、わたしたちにとって欠かすことができません。わた
したちの信仰は、共同体の信仰です。ですから教会に集まるという
ことが、消滅してしまうわけではありません。

こんかい じたい め み きょうかいきょうどうたい
しかし、今回の事態はわたしたちに、目に見えない教会共同体のき
ずなを深めることの大切さ、そして目に見えない教会共同体のきずな
は、毎日の家庭や社会での生活にあってもつながっていることを、あら
ためて自覚させてくれました。すなわち、わたしたちの信仰は、日曜日に
教会に集まってきたときにだけ息を吹き返すパートタイムの信仰ではな
くて、教皇フランシスコがしばしば指摘されるように、フルタイムの信仰
であることを、思い起こさせてくれています。

さまざま ばしよ ちゅうけい せんたくし
インターネットで様々な場所からのミサの中継があることで、選択肢
が増えたと喜んでおられる方もいるのかも知れません。

ちが
違うのです。

インターネットを通じて、^{つう} 教会が^{きょうかい} 皆^{みな}さんの^{まいにち} 毎^{せいかつ}日の^{なか} 生活^なの中にやっ^なてき
た^{きょうかい} のです。教^{せいかつ} 会^{はな}は生^{そんざい} 活^{まいにち} とか^{せいかつ} け^{なか} 離^{まいにち} れ^{せいかつ} た^{なか} 存^{まいにち} 在^{せいかつ} で^{なか} はな^{なか} く^{なか} て、毎^{まいにち} 日^{せいかつ} の^{なか} 生^な 活^な の中^{なか}
に^{きょうかい} ある^{とくべつ} も^{ふだん} の^{せい} とな^{せい} った^{せい} の^{せい} ず^{せい} です。教^{きょうかい} 会^{とくべつ} は特^{とくべつ} 別^{とくべつ} な^{とくべつ} と^{ふだん} ころ^{せい} では^{せい} な^{せい} く^{せい} て、普^{ふだん} 段^{せい} の^{せい} 生^{せい}
活^{せい} の^{せい} 一^{せい} 部^{せい} とな^{せい} ろ^{せい} う^{せい} と^{せい} して^{せい} います^{せい}。

教会は、^{きょうかい} 社^{しゃかい} 会^{かい} から^{かくり} 隔^{ひなんしよ} 離^{ひなんしよ} さ^{ひなんしよ} れ^{ひなんしよ} た^{ひなんしよ} 避^{しゃかい} 難^{あらなみ} 所^{ただなか} では^{ただなか} な^{ただなか} く^{ただなか} て、社^{しゃかい} 会^{あらなみ} の^{ただなか} 荒^{ただなか} 波^{ただなか} の^{ただなか} 直^{ただなか} 中^{ただなか}
に^{そう} ある^{ふね} 一^{みなと} 艘^{つな} の^{ふね} 船^{ふね} です。港^{ふね} に^{あらなみ} 繋^の が^の れ^の て^の いる^の 船^の では^の な^の く^の て、荒^{あらなみ} 波^の に^の 乗^の り^の だ^の し^の
て^{ふね} いる^{ふね} 船^{ふね} です。

同じ^{おな} 船^{ふね} の^の 乗^{なかま} っ^{なかま} て^{なかま} いる^{なかま} 仲^{かくにん} 間^{かくにん} と^{かくにん} して、^{かくにん} その^{かくにん} き^{かくにん} ず^{かくにん} な^{かくにん} を^{かくにん} あ^{かくにん} ら^{かくにん} た^{かくにん} め^{かくにん} て^{かくにん} 確^{かくにん} 認^{かくにん} し、^{かくにん} い^{かくにん} の^{かくにん} ち^{かくにん}
の^{きき} 危^{ちよくめん} 機^{せかい} に^{ただなか} 直^{ふっかつ} 面^{しゆ} して^{あた} いる^{あた} 世^{あた} 界^{あた} の^{あた} 直^{あた} 中^{あた} で、^{あた} 復^{あた} 活^{あた} さ^{あた} れ^{あた} た^{あた} 主^{あた} イ^{あた} エ^{あた} ス^{あた} の^{あた} 新^{あた} し^{あた} い^{あた}
い^{きぼう} の^{ひか} ち^{あた} へ^{あた} の^{あた} 希^{あた} 望^{あた} を、^{あた} 光^{あた} り^{あた} 輝^{あた} か^{あた} せ^{あた} る^{あた} 新^{あた} し^{あた} い^{あた} 教^{あた} 会^{あた} と^{あた} な^{あた} り^{あた} ま^{あた} しょう^{あた}。